

✧ 農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介 ✧

令和2年9月19日より、新たに任命されました。任期は令和5年9月18日までです。

会 長 岩 田 公 雄

会長職務代理 布 目 已佐子 石 田 正 彦

運 営 委 員 近 藤 正 俊

農業委員会委員

農地利用最適化推進委員

○東部・緑地区

小 嶋 盛 夫（緑 区）
成 田 秋 義（緑 区）
原 田 晴 充（緑 区）
近 藤 正 俊（天白区）
阪 野 文 明（天白区）

森 國 晃（南 区）
山 口 儀 明（緑 区）

○西部・守山地区

石 田 正 彦（西 区）
川 本 美 幸（守山区）
箕 浦 基 伸（守山区）

若 松 邦 義（北 区）
木 村 幸 廣（中村区）
大 島 誠 （守山区）

○中川地区

布 目 已佐子（中川区）
二 村 利 久（中川区）
横 井 昭 男（中川区）

伊 藤 正 幸（中川区）
安 井 正 敏（中川区）
横 井 慎 一（中川区）

○港地区

岩 田 公 雄（港 区）
清 水 久 一（港 区）
安 井 勝 春（港 区）

木 村 正 男（港 区）
竹 川 孝 司（港 区）
服 部 勇 夫（港 区）
安 井 秀 樹（港 区）

○中立

横 井 庸一郎（北区）

阪 野 文 明 原 田 晴 充
大 島 誠 木 村 幸 廣
布 目 已佐子 横 井 昭 男
安 井 勝 春

編 集 委 員



農業委員会担当区域図

名古屋市農業委員会だより 第7号

令和3年7月発行



《名古屋市農業委員会総会》

会長の挨拶

名古屋市農業委員会 会長 岩田 公雄



盛夏の候、皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症による大混乱が継続する中でも、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃から名古屋市農業委員会の活動に格別のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和2年9月19日に、新たに、農業委員16名と農地利用最適化推進委員12名とが選任されました。各委員には、1. 農地の権利移動・転用の許可等の審議及び決定（総会を原則月1回開催）、2. 農地の権利移動・転用の許可等に関する現地調査及び農地利用最適化推進委員と連携した現場活動、3. 担い手への農地の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消並びに新規参入の促進等に伴う現地調査及び指導並びに監視業務等、4. 農家からの相談対応及び農家への助言・指導、5. 名古屋市農業施策等に関する意見書の作成、調査活動等への参加などが課せられています。

これらの任務を果たすため、三密に注意し、各委員は、事務局職員らと一緒に日々活動しています。その成果は、市南西部における水田の集積・集約化、特定生産緑地の普及などに現れています。また、意見書についても、税制要望（固定資産税及び相続税の軽減）、生産緑地の要望（特定生産緑地制度の周知等）、営農支援要望（農業基盤の維持・整備及び人材育成等）及び地産地消の推進への要望（イベントや農業体験等の充実等）を骨子として、毎年、名古屋市長のみならず愛知県知事、農林省東海農政局長及び愛知県農会連合会会長へも、手交しています。

農業を取り巻く環境は厳しく、様々な困難がありますが、農業委員、農地利用最適化推進委員は、行政と農家・市民を結ぶ架け橋として、都市農業の活性化に強く取り組んで参ります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致しまして、会長の挨拶とさせていただきます。

肥培管理って何？

東部・緑地区は野菜や果樹を栽培している方が多く、現地調査をしているとよく質問をされます。肥培管理とはどのようなことか考えてみました。

土づくり

耕作の始めは整地、耕耘。

たい肥を使い、作りたい作物に合わせた土づくりをします。

その上で、窒素・リン酸・カリウム・石灰（カルシウム）・マグネシウムなどの肥料をバランスよく与えます。

収穫

農作物が育ったら、適期に収穫をすることも重要です。

果樹などは、実が落ちたままになっていると、鳥獣害の被害につながることもあるので、注意が必要です。

種まき・植え付け

土地・気候に合った、種まき・植え付けの時期を守って、病虫害などの被害を防ぎます。

作付け計画を立てて、同じ科の連作を避けることも重要です。

果樹の苗の植え付けは、成木になった時の大きさを見越して、適切な間隔を空けます。

水やり・除草など

湿りすぎ、乾きすぎに気をつけて水やりをします。

除草もこまめに行います。

果樹は定期的に剪定等の適切な管理を行います。

病虫害対策で農薬を利用する際は、農薬ラベル等を確認し、近隣の環境に配慮して、適正に使用します。

もっと詳しく知りたい方は、愛知県公式ウェブサイト内「農作物の施肥基準」をご覧ください。

西部・守山地区

◎ＪＡ岩塚支店にて朝市を開催

コロナの影響で夏のＪＡフェアも中止になりましたが、体操教室が再開されたのを機に、夏物野菜を軽自動車写真の様にマスクをして、お客様の密にならない様に配慮して販売しました。来て頂いたお客様に喜んでいただくことができました。

◎児童による稲刈り体験！



西部地区中村区岩塚小学校５年生の児童による稲刈り体験が行われました。コロナの影響を受け、田植えはできませんでしたが、校長先生から「何とか稲刈りできないかな」との相談を受け、実施しました。写真の様に全員がマスクをして又、密にならない様に指導しながら行いました。鎌でケガしない様に、子供たちは楽しみながら稲刈りに没頭していました。

刈り取った稲穂を割りばしに挟み込んで稲穂を取り、それをすり鉢に入れソフトボールでスリコギすると玄米になることを学びました。



～中川区供米田地区で人・農地プランが作成されました～

人・農地プランとは、地域の農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加など「人と農地の問題」を解決するため、５年後、１０年後の地域農業を担う経営体を決めるものです。

中川区供米田地区は、市街化調整区域（農業振興地域）に位置しており、耕地面積約 2.7ha、約 180 筆の農地を地元の農家が代々、水田として守ってきました。しかし、地理的に大型機械が入りづらい、ほ場内に高低差があり水の管理が難しい、土地の筆が細かい、分散しているといった理由により、効率的な農地管理が難しいなどの地域特有の課題を抱えておりました。

こうした地域の課題を解決するため、令和 2 年度に供米田地区の農業土木委員等が中心となって地域への声掛けや地域での話し合いを行いました。その結果、耕地面積約 2.7ha のうち約 2ha が令和 3 年度より新たな担い手によって耕作されることとなりました。

令和 3 年度より、中川区内の供米田地区以外の農業振興地域においても、「人と農地の問題」の解決に向けて、人・農地プランの作成に向けて取り組んでいきます。

港地区

◎野菜トラック市の開催

令和 2 年 12 月 5 日、戸田川緑地（芝生広場前・南地区園路）において、戸田川緑地管理センター主催の元、港区と中川区の地元農家が協力して、季節野菜を中心とした新鮮な農産物を販売しました。今回、初めての試みということもあり、当初は集客数を心配していましたが、当日は天候にも恵まれ、多くの買い物客で賑わいました。今後は、「野菜マルシェ」として、夏野菜と冬野菜のシーズンに合わせ、年 2 回継続的に開催予定です。地元農家が生産した新鮮な農産物をお楽しみに♪



◎港区の地産地消マップ

戸田川緑地「とだがわ陽だまり館」をはじめ、港区内で農産物を販売している直売所や港区の農家が生産した農産物を取り扱っている店舗を対象とした地産地消マップを作成しました。

ここでは、地域特産の農産物の直売に愛着を持って生産者が自ら納品している「とだがわ陽だまり館」を紹介します。館内の「地産地消コーナー」では、近隣の生産者が育てた四季折々の旬の野菜が種類豊富に納品され、購入者からは「地元の野菜が安価で手に入り、鮮度も良くておいしいです」とリピーター客の多い農産物直売所です。

上記以外にも多くの直売所等があります。詳しくは地産地消マップをご覧ください。

なお、港区の地産地消マップは港区内の関係各所にて配布しております。

◎南陽地区の農地中間管理事業の集積面積

南陽地区における農地中間管理事業による農地貸出し集積面積状況（南陽地区の田面積≒300ha）

平成 28 年度：143ha 29 年度：23ha 30 年度：11.3ha 令和元年度：3.6ha 2 年度：2.8ha

